

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人 みどり福祉会
施設名 特別養護老人ホーム あんきの家細畑
施設の種別 介護老人福祉施設

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社 FUJI	移乗サポートロボHUG
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
2 台	令和 4 年 9 月 16 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

- ・ベットから車椅子へ移乗の際、車椅子からベットへの臥床の際
- ・車椅子からトイレ便座への移動、便座から車椅子へ移動
- ・車椅子から入浴用シャワーチェアへの移動、シャワーチェアから車椅子への移動

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

- ・ご本人様のつかまる力(握力)と足裏をしっかり付け膝を伸ばすことで残存機能の保持に努めることができています。
- ・職員の負担軽減は導入の時点ではほぼ達している。

【介護ロボットの導入効果】

※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

- ・時間短縮はあまり感じないが、介護ロボットのスピードに慣れ、介護ロボットを使用することでの体力的負担軽減が図れている。
- ・直接利用者様に触れることが減ったために皮膚トラブルの軽減につながった。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

※介護ロボットの機能に関する事、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。

トイレスペースで使用する際、HUGが大きく、操作しづらい。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人 千寿会
施設名 ケアハウス千寿の里西小田
施設の種別 特定施設入居者生活介護(軽費老人ホーム)

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社FUJI	移乗サポートロボットハグ
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
2 台	令和 5 年 3 月 1 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

大腿骨を骨折され、ADL低下する。その後の移乗方法として使用している。
トイレにて排泄を希望された際に立位困難な入居者に対して使用している。
ベッドなどから移乗をする際に使用している。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

ハグを使用し、立位困難な入居者をトイレ誘導することが出来た為、オムツを外すことが出来るようになった。
移乗時に2人介助で対応していたことが一人で対応出来るようになった為、身体的な負担や他の業務への対応が出来るようになり、効率化が図れるようになった。

【介護ロボットの導入効果】

※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

トイレでの排泄を行うことが出来たことにより、気持ちが前向きになり自立支援にも繋がった。
スタッフが2人で対応していたことが一人で出来る様になったことで身体的・精神的な負担の軽減へと繋がった。
移乗に掛かる時間も少し減少したことで業務の効率化が図れた。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。

僅かな段差(ミリ単位)を乗り越える(通過する)のが大変である。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 有限会社エスランケア
施設名 グループホームささゆり
施設の種別 認知症対応型共同生活介護

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社FUJI	HugT1-02
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
2 台	令和 4 年 9 月 22 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

歩行困難、車いす移動の入居者を、ベッド若しくは車いすから介護ロボットを使用してトイレまで移動し排泄支援をする。
2名の利用者に一日一人当たり、平均して昼間4回 夜間5回程度使用する。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

目標 : ① 職員の身体的負担軽減と介助に必要な人員の合理的な削減
② 入居者の立位保持機能の獲得

達成状況 : ①はほぼ8割程度は達成できているが、ロボットを使用する職員に達成状況の差が出ているので、不慣れな職員を訓練していく。②は達成率0%。二人とも立位保持困難な状態。

【介護ロボットの導入効果】

※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

* ロボットを導入するまでは、当施設においての移乗介助は人力に頼っていたが、導入後二人でしていた排泄支援が、一人で行えるようになった。
* 立ち上がり・立位保持・歩行の困難な入居者に対して排泄支援でズボンを下げる時、入居者の立位を保持する労力がなくなった。
入居者は、支えてもらう時の気兼ねが無くなったと言う。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

※介護ロボットの機能に関する事、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。

* 現在、職員の指示に従って動ける入居者なので不便はないが、指示が通じない入居者に対してはロボットの使用が困難になる可能性がある。
* 排泄支援で入居者の体重を支える時に感じる温かみがなくなった。
* リモコン操作時、入居者から目を離さなければならない。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 医療法人社団 誠道会
施設名 各務原リハビリテーション介護医療院
施設の種別 介護医療院

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社Fuji	HugL1-01
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
4 台	令和 4 年 9 月 16 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

使用する場面:トイレ・就寝・入浴時の移動

介護医療院3階、4階、5階、浴室に設置し計6名程度を対象に使用。

使用実績:令和5年2月 765回/月

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

- ①「職場環境の改善を図る」という目標については、業務の負担軽減について意見を言えば環境を整えてもらえるという事が職員に伝わった。
- ②「業務負担の軽減」についても1人でできる様になったことで50%程度の達成と考えている。

【介護ロボットの導入効果】

※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

- ①利用者の負担軽減:利用者が安定感のある乗り心地で、動きがゆるやかで安心である。
- ②スタッフの負担軽減:自力で抱えるのではないので、体が楽である。また操作が簡単で使いやすい。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。

- ①膝あての位置を調節するピンが扱いにくく一手間かかる。
- ②小柄な方には高さ調節ができないので使えない。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ **2年目** ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人 井ノ口会
施設名 あんずの里
施設の種別 地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社 FUJI	Hug T1-02
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
1 台	令和 3 年 12 月 20 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

- ・排泄の移乗介助時・・・毎日3～4回、対象者2名。
- ・ベッドからの離着床時・・・毎日6～8回、対象者1名。
- ・入浴での離・着床時・・・週2回の入浴で3～4回、対象者1名。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

- ・職員の腰への負担について・・・「負担なく安全に介助できるようになった」と、全職員が回答をしている。
- ・職員2人がかりの介助を減らし、人的省力化や業務効率を高めることについて・・・職員1人で対応できるようになったことで、待たせることなく介助が行えた。また、これまでは2人で対応していたこともあったがHugを使うことにより1人介助が可能となり、人的省力化が可能となった。

【介護ロボットの導入効果】

※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

- ・介護職員・利用者側の双方が、「楽になった」や「安心、安全になった」との意見であるため、導入効果を実感している。
- ・60歳、70歳代の複数女性職員も、安心して1人で機器操作・介助ができています。
- ・介助による抱え上げ動作がなくなり、介助者の腰への負担が減った。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。

- ・機器利用者の体格差に応じて微調整を必要とするため、操作する職員が一定以上の能力や慣れを有するまでに、事前の訓練等を必要とする点。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ **2年目** ・ 3年目)

法人名 株式会社 ユタカメディカシステムズ
施設名 ゆかりの郷訪問介護ステーション嵯峨
施設の種別 訪問介護

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社 FUJI	移乗サポートロボットHug T1-02
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
1 台	令和 3 年 11 月 30 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

- ※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。
- ・足が立たない且つ体重の重い方の場合は、起床時に都度使用している。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

- ※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。
- ・Hugを利用することにより、移乗作業を原因とした腰痛発症を防除することにより、腰痛による離職ゼロを目標としているが、現在はその目標を達成している。

【介護ロボットの導入効果】

- ※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。
- ・女性スタッフでは対応できなかった移乗ケースに対応できるようになった。
- ・体感的に腰への負担が軽減された。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

- ※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。
- ・小型の車いすに対応する場合、ロボットの一部分が干渉して移乗しにくい場合がある。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ **2年目** ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人 白寿会
施設名 特別養護老人ホーム いぶき苑別館
施設の種別 介護老人福祉施設

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	FUJI	移乗サポートロボット Hug
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
1 台	令和 3 年 10 月 29 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

トイレでの排泄やベッドと車いす間の移乗のための介助に二人の職員が必要かつロボットにつかまることができるご利用者を対象に使用している。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

介護の質の向上…トイレでの介助が難しい方のトイレ誘導が可能となる。安全な移乗が可能となる。職員に対する着替ねや遠慮がなくなり気軽にご利用者からの要望がしやすくなる。
介護従事者の負担軽減…抱える動作により生じる身体的負担が軽減された。安全に移乗できることで精神的負担が軽減された。

【介護ロボットの導入効果】

※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

シンプルな操作、装具不要など手順が少ないため気軽に使い易い。抱える・支えるといった力が必要な動作がないため、身体不調予防に役立っている。従来の介助方法(2名対応)をHUG使用にて1名対応と変更できたことで、従来72分/日かかっていた介助時間が、27分/日に短縮。45分/日の時間削減効果が得られる。この時間をご利用者のケア等に充てている。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。

背中をホールドする機器ではないため、職員の声掛けや機器の機能が理解できる方でないと安全に使用できない
車輪が弱く壊れやすい

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人 桜友会
施設名 ほほえみ福寿の家
施設の種別 介護老人福祉施設

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	パナソニック エイジフリー株式会社	リシオーネPlus
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
6 台	令和 R3 年 10 月 28 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

・移乗に関して全介助が必要な利用者の移乗(朝の起床、朝食後の休憩、昼食前の起床、昼食後の休憩、夕食前の起床、夕食後の休憩、就寝等)で毎日使用。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

・2人介助から1人介助になった事で1人の職員分の業務効率が向上した。
・ベテラン職員、新人職員の技術の差が埋まり、利用者の安全安楽の確保ができた。
・全介助が必要な利用者の移乗介助がなくなったため、職員、利用者側の負担が軽減された。

【介護ロボットの導入効果】

※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

・移乗介護が原因の皮膚トラブル0件。
・2人で移乗介助を行うために職員を待つ時間の短縮(1日:5分×7回=35分の短縮)
・使用方法も簡単であり職員の満足度も高い。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。

・合体から分離、その逆の時に利用者を横に移動しなければならない手間がある。この時に摩擦等のリスクがある。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ **2年目** ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人 桜友会
施設名 ほほえみ福寿の家
施設の種別 介護老人福祉施設

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	マッスル株式会社	SASUKE
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
2 台	令和 R3 年 10 月 25 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

・ティルト式車いすやリクライニング式車いすを使用している利用者の移乗(朝の起床、朝食後の休憩、昼食前の起床、昼食後の休憩、入浴、夕食前の起床、就寝等)で毎日使用。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

・2人介助から1人介助になった事で1人の職員分の業務効率が向上した。
・ベテラン職員、新人職員の技術の差が埋まり、利用者の安全安楽の確保ができた。
・利用者に移乗介助時に吊り上げる事がなくなったため、利用者の身体的負担の軽減となった。

【介護ロボットの導入効果】

※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

・移乗介護が原因の皮膚トラブル0件。
・2人で移乗介助を行うために職員を待つ時間の短縮(1日:5分×7回=35分の短縮)

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

※介護ロボットの機能に関する事、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。

・SASUKE本体が大きく重く、居室内等の狭い空間では小回りが利かないため負担に感じる。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 1社会福祉法人 愛燦会
施設名 地域密着型特別養護老人ホーム 長寿の里・海津
施設の種別 地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社 FUJI	Hug T1-02
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
1 台	令和 2 年 12 月 3 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

具体例 二人介助でトイレ誘導をしていたAさん、Hug導入以前は排泄を怖がっていました。一人が抱えて、一人がズボンの上げ下ろしを行っていました。抱えると自分で立てず、ぶら下がるように職員につかまっていました。職員は腰に大きな負担がかかりました。Hug導入後はAさんは安心してトイレに行けるようになりました。・Hugが立ち上がりを補助してくれるので、職員一人でトイレ誘導ができるようになりました。立ち上がっている間に、皮膚の状態を確認したり、軟膏を塗布できるようになりました。職員の腰への負担が大きく減少しました。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

現在、5名の利用者にHugを使用しています。Hugになれると、自分からHugにつかまろうとされます。ご利用者が安心してトイレで排泄ができるようになりました。また、職員の介護負担軽減になり、腰痛が原因による離職者は導入3年で1人もいません。目標はほぼ達成しました。Hugをさらに利用したいというご利用者が増えたため、補助金を使わせてもらい、令和5年度にもう一台追加予定です。

【介護ロボットの導入効果】

※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

具体例にも記入した通り、二人介助で一人が抱え、一人がズボンの上げ下ろしをしていた利用者が、職員1人で排泄介助ができるようになりました。トイレに行きたいときは、Hugの近くまで自走される利用者もいます。利用者は怖い思いをせずに、安心してトイレに行けるようになり、満足されています。職員もトイレ以外にも、入浴やベッド⇄車いすの移乗にもHugを使用して、介護負担軽減になり、大変満足されています。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

※介護ロボットの機能に関する事、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。

Hugが脇を抱えてくれるので、安全に移乗できますが、床に足で立つ必要があり、足の関節がある程度開かないと使用できません。腕をHugにのせる必要があり、どちらかの腕に拘縮があると使用できません。

しかし、使用できる利用者も多くいて、使用するときの準備の時間はほぼなく、すぐに利用できるもので、本当に助けられています。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人登豊会
施設名 特別養護老人ホーム 岐南仙寿うれし野
施設の種別 介護老人福祉施設

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	(株)FUJI	Hug(L1-01)
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
2 台	令和 3 年 1 月 28 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

入居者A様:日中のトイレ介助(9時前後、昼食前、昼食後、夕食前後、寝る前など随時)起立～下衣操作～着座の場面にて毎回使用。日勤帯に勤務する常勤・非常勤職員ともに使用方法は定着している

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

・ロボットを使用している職員が一部にとどまっている為、使用していない介護職員へのロボット導入への興味や、理解に関しては未だに向上していないように感じる。もう少し使える機会が多かったり、介入効果や確立したエビデンスがあると興味がわいたり理解が得られやすいのではないかとと思われる。

【介護ロボットの導入効果】

※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

・使用していない時と比較し、今までの徒手的介助では、やり直しなどで1回で行えなかった動作が一度で行えることで介護時間は短縮したと感じる。
・保管場所からの移動や通常使用での汚染等、清掃など付随する負担はあると考えられるが、概ね大きな負担とは言えない程度である。
・介護者の負担としては10点満点中3点との回答であった。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

※介護ロボットの機能に関する事、使い勝手に関する事など具体的に記載すること。

・ご利用者A様:「ロボットを使用することで安心感はあるが傾くときに少し怖いと感じる」
・介護者:車いすからトイレの異常の際は狭所での取り回しであるため壁にぶつかりそうになったりと、環境への配慮が必要な場面がある。
・足元ブレーキをかける際に片側ずつかける必要がある為、操作が煩雑になる。リモコンに関しても操作しやすいように引っ掛ける位置を配慮する必要がありストレスと感ずることがある。